資料3-1

熊本市生物多様性戦略
-計画期間中に達成すべき目標と具体例-

説　　明：15分
質疑応答：25分

令和4年（2022年）3月25日
熊本市生物多様性推進会議

熊本市生物多様性戦略
-計画期間中（2023年）に達成すべき目標-

基本戦略1 ～知る～	・自然環境に関する情報が収集・整理され、関係者がアクセスすることができる環境が整っている。	計画期間 （2023）
基本戦略2 ～学び、つながる～	・生物多様性について、認知度が高まり、生物多様性や自然体験に関するイベントへの参加が増加している。 ・「生物多様性について知っている市民の割合」H26 13.8%→R5　25.0%	
基本戦略3 ～守る～	・絶滅危惧種の保全や生きものの生息・生育地の保全、外来種対策等について、緊急的な取組が実施されている。 ・効果的な対策の手法についての検証が進んでいる。 ・広域的な視点での具体的な取組が実施されている。	
基本戦略4 ～創る～	・生きものの生息・生育地の創出に寄与する緑化の取組が行われている。 ・効果的な緑の創出・ネットワーク形成手法や整備・管理手法が検討されている。 ・生物多様性に配慮した整備が増加している。	
基本戦略5 ～活かす～	・「水」や「歴史・文化」の視点と連携し、生物多様性が地域資源であることが認識され、地域の魅力が発掘され、活用する取組が実施されている。	

基本戦略1　～知る～

基本戦略1
～知る～

・自然環境に関する情報が収集・整理され、関係者がアクセスすることができる環境が整っている。

◎いきもんMAP

・庁内GISを活用して生きものの生息・生育地を見える化
・何を、どの範囲まで公開すべきか検討中（特に希少種）
・庁舎内では工事の計画段階での活用を想定
・最終的には市民への公開を目指す

基本戦略2　～学び、つながる～

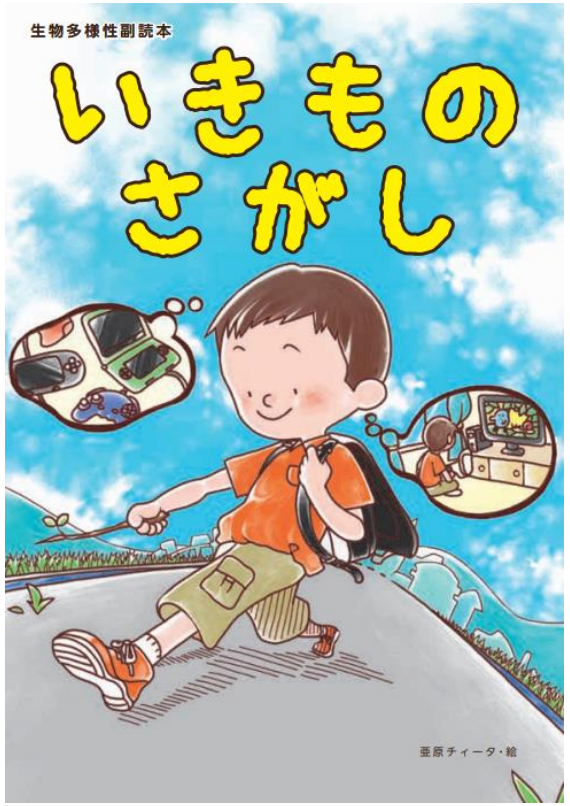
基本戦略2
～学び、つながる～

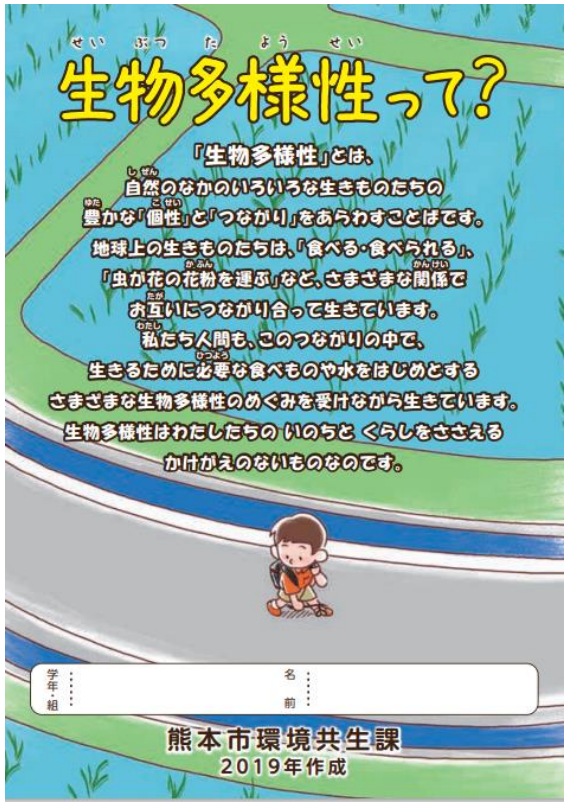
・生物多様性について、認知度が高まり、生物多様性や自然体験に関するイベントへの参加が増加している。
・「生物多様性について知っている市民の割合」H26 13.8%→R5　25.0%

◎生物多様性副読本「いきものさがし」

・小学4年生を対象に配布
・R3年度は紙媒体（冊子）での配布を廃止し、
　デジタル版をHP上に公開

・新型コロナウイルス感染症の影響で、各種イベントの多くが中止となったが、一方で、ICTを活用したリモート講座など、コロナ禍での新しい生活様式に対応した事業も目立った





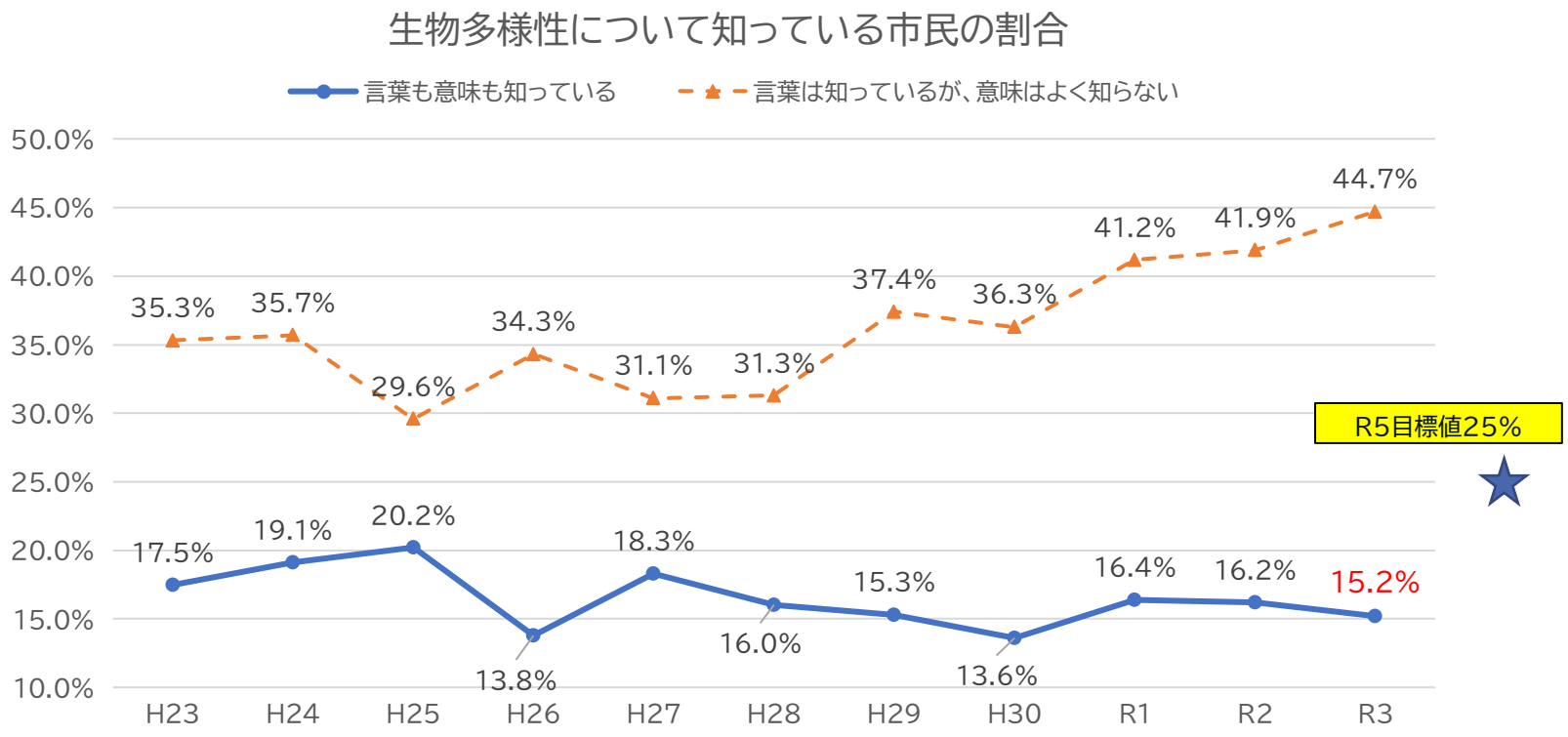
基本戦略2　～学び、つながる～

基本戦略2
～学び、つながる～

・生物多様性について、認知度が高まり、生物多様性や自然体験に関するイベントへの参加が増加している。
・「生物多様性について知っている市民の割合」 H26 13.8%→R5　25.0%

◎生物多様性の認知度

・言葉も意味も知っている人の割合は低水準で推移
・言葉の意味を知っている人の割合は増加傾向
・意味を理解してもらう取組が必要



基本戦略3　～守る～

基本戦略3
～守る～

・絶滅危惧種の保全や生きものの生息・生育地の保全、外来種対策等について、緊急的な取組が実施されている。
・効果的な対策の手法についての検証が進んでいる。
・広域的な視点での具体的な取組が実施されている。

◎江津湖の外来魚駆除

・定期的な駆除により外来魚の低密度化を保っている
・一方、江津湖全体にどれだけの外来魚が生息しているか
　わからないので効果の検証が難しい
→環境DNA分析調査を実施
　検出されたDNA濃度から外来魚の推定生息数を把握し、
　効果検証を行う

◎アライグマ対策

・隣接する周辺地域でのアライグマ捕獲や確認情報が増加
→熊本連携中枢都市圏事業を活用し、熊本市、玉東町、宇土市、
　宇城市の4市町で広域的な生息状況調査を実施

基本戦略4　～創る～

基本戦略4
～創る～

・生きものの生息・生育地の創出に寄与する緑化の取組が行われている。
・効果的な緑の創出・ネットワーク形成手法や整備・管理手法が検討されている。
・生物多様性に配慮した整備が増加している。

◎熊本市緑の基本計画

・令和3年3月改定
・地球環境や生物多様性に配慮した取組を推進する内容も記載。
・緑の基本計画に定める緑化重点地区での緑化が推進されるよう、各種補助事業を見直した。
・今後、緑の基本計画推進委員会を開催し、進捗状況の評価や見直し等を行う。

3 地球環境や生物多様性に配慮した自然環境の保全

森林、里地里山、河川等は、多様な生物の生息空間となっており、これらの生物多様性があることにより食料の供給や地球環境の維持などが保たれています。そのため、生物の生息環境を保全・活用することで生物多様性を確保し、人と自然環境が共存・共生した地域づくりを推進します。

具体的な事業	担当課
(1)熊本市生物多様性戦略の推進	
①絶滅危惧種の保全	環境共生課
②外来種対策の実施	環境共生課
(2)Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）の視点の推進	
①【新規】Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）の視点の推進	環境共生課、農業政策課森づくり推進室

■具体的な事業がもたらす緑の質の向上

上記の具体的な事業を行うことにより、次の緑の役割（緑の質）が向上します。

1．都市環境の維持・改善	2．良好な都市景観の形成	3．都市の安全性の確保	4．健康づくり・レクリエーション空間の提供	5．精神的充足

(1)熊本市生物多様性戦略の推進

生物の生息・生育地の保全により生物多様性に配慮した取組を推進します。

①絶滅危惧種の保全

・江津湖に生息するヒラモ等の市内に生息・生育する絶滅危惧種※資料 19 の保全に向けて、市民・事業者・行政で一体となった取組を推進します。

基本戦略5　～活かす～

基本戦略5
～活かす～

・「水」や「歴史・文化」の視点と連携し、生物多様性が地域資源であることが認識され、地域の魅力が発掘され、活用する取組が実施されている。

◎熊本市の水を活かした魅力発信

・世界に誇る「地下水都市くまもと」の水の魅力や地下水保全の取組を発信

アジア太平洋地域の首脳級や国際機関の代表などが参加し、水に関する諸問題について議論する第4回アジア・太平洋水サミットが熊本市で開催されます。
このサミットの成果を「熊本宣言」として国連水会議（2023年3月開催予定）で世界に発信します。

令和3年5月、熊本市は無印良品を展開する「株式会社 良品計画」と連携協定を締結しました。
今後は「水を通じた持続可能な社会の実現」に向け、さまざまな取組をおこなっていきます。

◎地元の農水産物を活かした魅力発信

・直売所の利用促進につながる取組や地産地消フェアの開催を通して、豊かな自然に育まれた上質な農水産物の魅力を発信

直売所アプリ「Farm Post（ファームポスト）」は、直売所へ出荷する農業者等が消費者の皆様へ、出荷情報等をリアルタイムにお届けするアプリです。